

芸術の輪を広げよう

～竹喬美術館と図書館で『芸術』を身近なものに！～

笠岡高等学校 メンバー：安田 坂上 妹尾 竹下

<概要>

近年、竹喬美術館の来館者数が減少しているとともに画家小野竹喬の知名度も低くなっていると気付いた。そこで、隣接する笠岡市立図書館とのコラボレーションを企画することによって、竹喬美術館のリピーターを増やしていくことを提案する。

図書館を訪れる幅広い年齢層をうまく取り込む形で来館者や竹喬の知名度の向上を図っていく。

1. 笠岡市立竹喬美術館について ①

○笠岡市出身の日本画家 小野竹喬の業績をたたえるため、建設された



- ・1982年10月に開館
- ・竹喬ゆかりの地出身の他の画家の作品も紹介、展示会を開催している



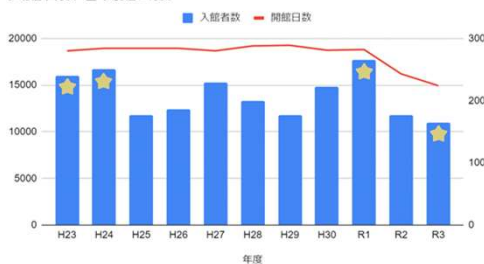
2. 探究背景の説明・現状分析

★入館者が減少している ②

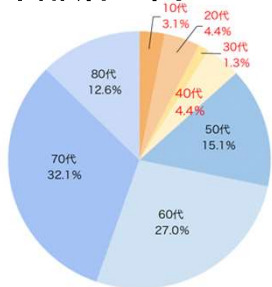
(2011年からの11年間で)

- ・「小野竹喬」のことを知っている人が**減少**している

入館者数と開館日数



★年齢層が高い ③



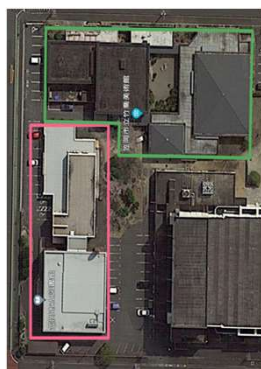
- ・60～70代が半数以上
- ・50～80代は2桁だが、10～40代は1桁
- ・10～40代は2割もない

3. 探究手法

入館者を増やしたい

- ・隣にある図書館なら近くて人が集まりやすい
- ・図書館には若い人からお年寄りまで幅広い人が訪れている

何かとコラボしてみたら良いのでは？



4. 結果(仮説の検証結果・予測)

図書館とのコラボ

1. 「竹喬物語」を読み聞かせ(休日)

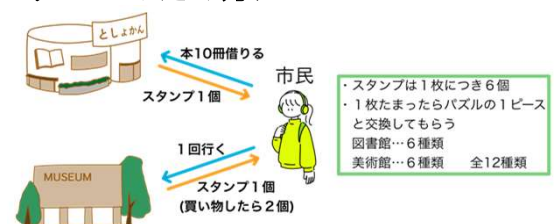


2. スタンプラリー

<ぬり絵&スタンプカードのもらい方>



<スタンプのため方>



5. 考察

- ・スタンプラリーを行うことで、美術館と図書館どちらも入館者が**増え**、通うことが**習慣化**する
- ・訪れる年齢層の幅が**広がる**
- ・読み聞かせをすることで、**若者も竹喬のことを知る**ことができる
- ・ぬり絵を美術館に飾ることにより、家族で来館してもらえる

6. 結論・まとめ

- ・図書館とのコラボは、人の目に留まりやすく、行いやすいため、美術館の来館者を増やすのに効果的であると**考えられる**
- ・子供にも親しみやすいぬり絵やスタンプラリーを行なって、幅広い年齢層に興味を持ってもらうことができ、来館者の増加につながると**考えられる**

7. 引用文献・参考文献

- ①笠岡市立竹喬美術館ホームページ
<https://www.city.kasaoka.okayama.jp/site/museum/>
- ②開館以来入館者数及び会館日数累計
「美術館のプロデュースに挑戦」P1
- ③アンケート報告 年代 「美術館のプロデュースに挑戦」P9

